

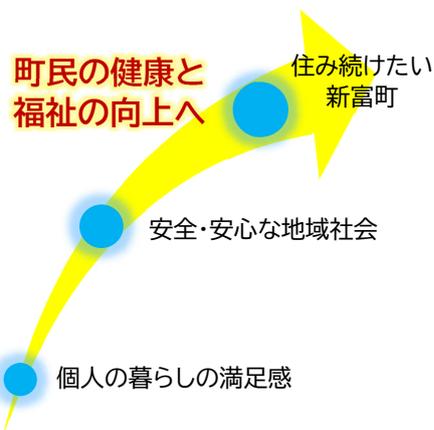
第4章：新富町まちづくり基本構想

1 コンセプト

「町民の健康と福祉の向上～これからも住み続けたいまちへ～」

第6次新富町長期総合計画の基本ビジョンでは、「住んでみたい」「住み続けたい」「住んでいてよかった」「卒業後や定年後には帰ってきたい」「ここで子育てしたい」と思われるまちの実現を目指しています。また、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略では、「子どもが帰ってきたくなるまち」を目指しています。一方で、前計画では集客による地域活性化を推進し、スポーツによる交流活性化について一定の成果が示されています。

そこで本構想では、あらためて町民が身体的・精神的・社会的に満足度が高いまちとして、「町民の健康と福祉の向上」を中心に据えた取組を示し、その実現の積み重ねから、魅力あふれる町の未来へつなげます。



基本方針1：子どもから高齢者まですべての人々が共生するまちの実現

今後、本町では少子高齢化が進むなかで、子どもから高齢者まで、すべての人々が世代を超えた価値観を共有しながら支えあい、豊かに暮らせる地域社会として多世代共生のまちを実現します。



基本方針2：地域の暮らしの満足度を高める新たな場の創造

本町は、豊かで恵まれた自然環境と基地と共生する特徴的なまちづくりを進めてきています。コロナ禍以降の暮らし方が多様化する社会において、住民の満足度を高める新たな場の創造を進めていきます。



基本方針3：地域の人々が主体的に参画する持続可能な仕組みづくり

近年、脱炭素やDX、シェアリングエコノミーなどの新たな視点が重視されています。成熟した社会を持続可能とするため、地域の人々が主体的にまちづくりに参画し、多分野が共創する仕組みを実現していきます。



2 対象エリア及びゾーニング

[まちづくり基本構想の対象エリア]

本町で老朽化が進む主要公共施設や公共空間を対象に住民生活の質の向上を図るため、町全域を対象とします。各ゾーンの取組を示すとともに、ゾーン間の動線も考慮します。

ゾーニング

①中心拠点ゾーン

新富町の行政機能や商業が集積する中心的な場所
→役場隣接の福祉施設や体育館の老朽化が進み、新たな施設整備が求められる

②スポーツ健康ゾーン

新たな地域活性化拠点としてスポーツや交流機能を担う場所
→サッカー場来訪者の街なかへの回遊性向上が求められる
→地域内外の交流促進に資する魅力向上や拠点強化が求められる

③レクリエーションゾーン

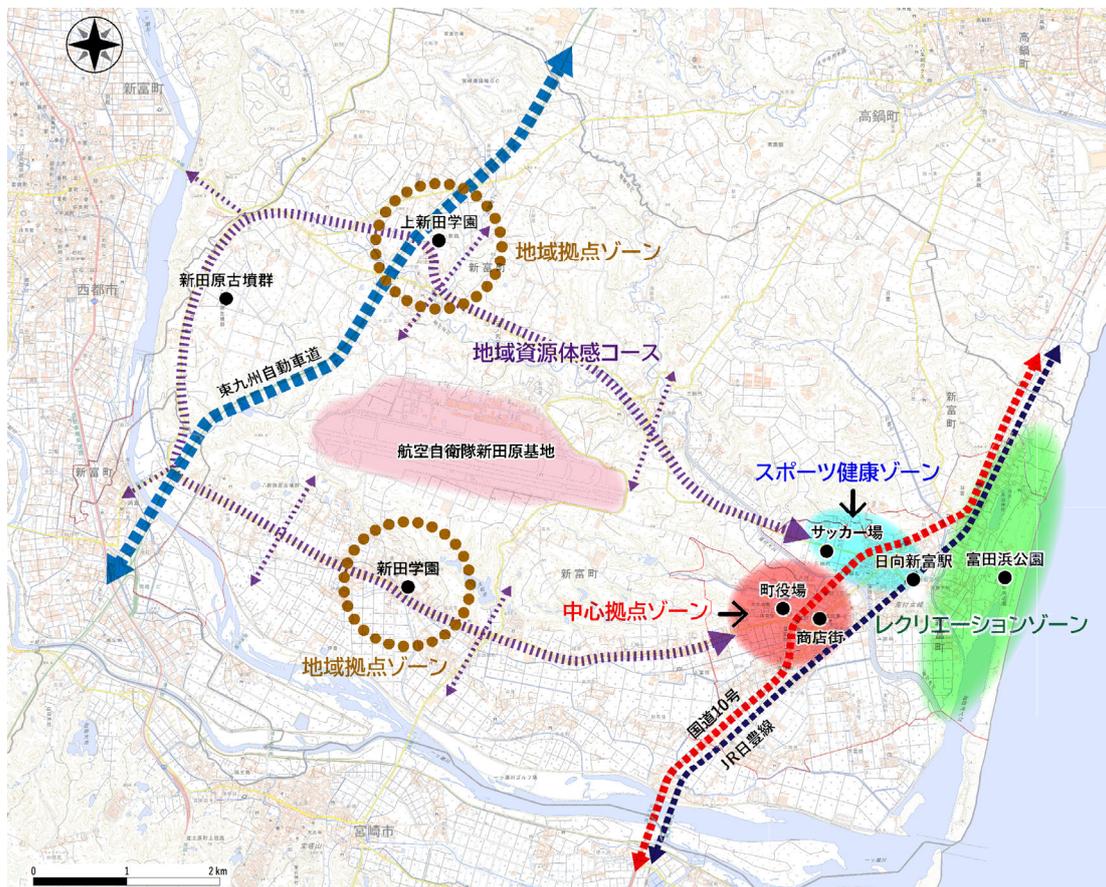
富田浜は自然環境を有し、レクリエーション拠点として活用されている場所
→公園全体の老朽化や入り江の水質改善、自然を保全しつつ有効利用が求められる

④地域拠点ゾーン

小中学校や支所などが立地し、町内外の人々が回遊する際のポイントとなる場所
→老朽化施設更新と合わせて、地域コミュニティを維持する拠点形成が求められる

⑤地域資源体感コース

新田原基地を囲むように町内を回遊する県道・町道を活用したコース
→歴史や自然などの地域資源を体感できるコースとしての環境整備が求められる



3 各ゾーンの取組方針

(1) 中心拠点ゾーン

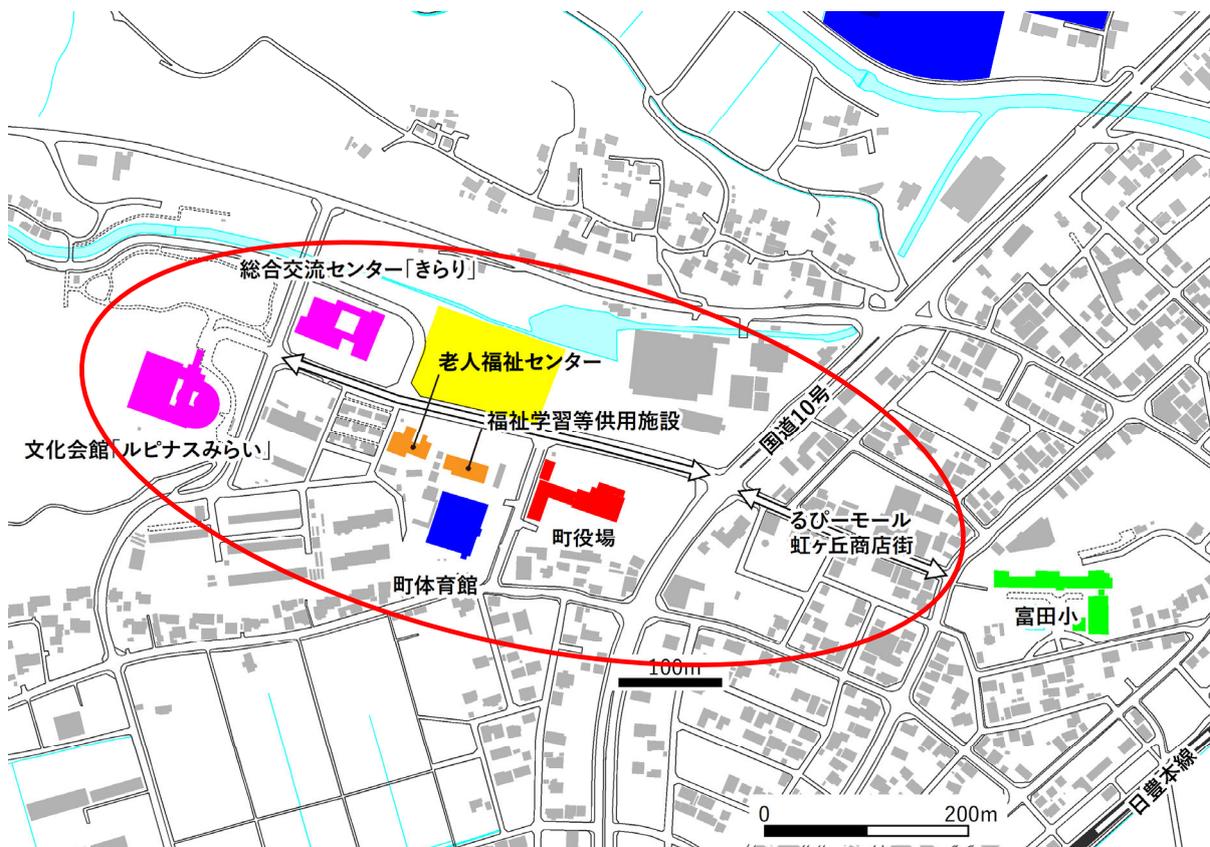
[対象地の概況]

- ・ 中心拠点ゾーンには町役場をはじめ、福祉施設や文化交流施設、スポーツ施設が立地しており、国道10号を挟んで商店街が続いている。
- ・ ゾーン内の公共施設のうち、福祉学習等供用施設や老人福祉センター等は築年数が約50年を経過しており、施設更新の検討が求められている。



[ゾーン内の主な公共施設]

施設名称	機能	建築年度	延床面積
町役場	行政サービス	1969年	4,854 m ²
老人福祉センター	高齢者や児童クラブ	1976年	660 m ²
福祉学習等供用施設	会議室	1972年	1,319 m ²
新富町体育館	バレー、バスケット、卓球など	1973年	2,999 m ²
総合交流センター	図書館、クッキングスタジオなど	2015年	3,399 m ²
文化会館	大ホール、イベントホールなど	1999年	5,344 m ²



特に町民が利用する便益施設が多いこのエリアでは施設間の連携を高め、利用者が立ち寄りやすい環境を整える必要がある。

(1)ー1:福祉施設の統合と周辺施設的环境整備

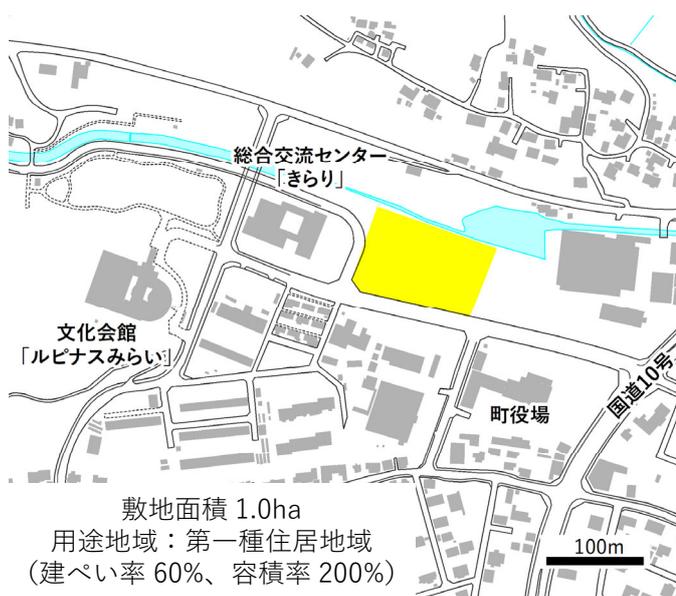
【目的】

既存の福祉学習等供用施設及び老人福祉センターでは、町民からの福祉全般の相談や支援、児童クラブ運営など、多世代、多岐に渡り業務を実施している。しかしながら、旧耐震施設であり、老朽化やバリアフリー化されていない当該施設は町民にとって非常に利用しづらい場所となっている。

また、本町庁舎においても、福祉課やいきいき健康課など町民の福祉や健康に関する事務を実施しているが、業務量の増加に対応する人員の増加に庁舎の面積が不足しており、特にあんしん長寿課やいきいき健康課は、庁舎の間取りに合わせて課が分断されており、子どもの健診設備の不足など、利用しづらい施設となっている。

他方、本町には児童館（児童に健全な遊びを与えて、その健康を維持し、又は情操をゆたかにすることを目的とする児童福祉施設）が無く、特に日照時間の長い宮崎県では夏季、秋季において児童が安心して安全に遊ぶ場所が町内に無い。また、病気になった児童を預かる施設も無いため、共働き世帯からのさらなる子育て支援環境の充実も求められている。

このような課題を解決するため、現在実施している様々な機能は維持しつつ、不足している機能を追加した上で、昨今の社会情勢や町の財政状況等を踏まえ、機能を集約し、本町の福祉の拠点として町民の健康福祉の向上を図ることを目的とする。



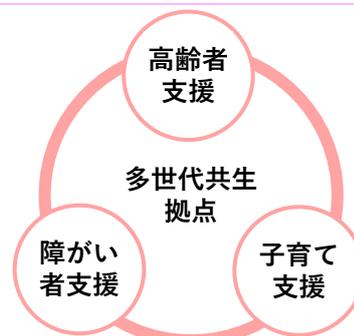
[取組方針]

コンセプト：多世代共生拠点

【基本的な考え方】

現在の福祉施設及び町体育館の敷地等を一体的に活用し、子どもから高齢者、健常者も障がい者ともに交流する施設整備を目指す。

- ◆高齢者支援：生涯学習、介護予防…
- ◆子育て支援：子育てサロン、児童館…
- ◆障がい者支援：自立支援、就労支援…



【取組方針】

- みんなが使える**・・・バリアフリーやユニバーサルデザインでの整備
- みんなで遊べる**・・・児童館や高齢者サロン、だれもが遊べるインクルーシブ設備
- みんなで楽しむ**・・・各支援施設のほか、みんなで楽しめる共用空間を整備
- みんなを守る**・・・災害時の避難施設を想定した整備

[主な導入機能]

- 行政機能
健康・福祉に関する相談や支援を行う福祉課やあんしん長寿課等に必要な執務室や受付等の接客に対応できる設備
- 社会福祉機能
福祉に関する相談や支援に必要な事務所、倉庫、各種福祉事業に必要な部屋や受付等の設備
- 子育て支援機能
共働きの子育て世帯を支援するため病気の子どもを預けることができる病児・病後児保育や放課後児童クラブ等に必要な設備
- 児童館機能
健全な遊びや健康の維持、熱中症予防など安心・安全に遊べる屋内遊戯スペースやオープンスペース、健診時に子どもを観察する観察室等、児童や親が安心して過ごせる設備
- 健診機能
子どもが順調に育っているか確認し、子どもの健やかな成長を支援する乳児健診や3歳児健診など児童の健診に必要な設備
- 児童生徒支援機能
学校に登校することが難しい児童の社会的自立支援を行う教育支援教室（けやき教室）に必要な設備
- 共用・管理機能
子どもの健診や健康体操、いきいきサロン、健康に関する研修などが実施できる様々な規模の会議室や職員用ロッカー、休憩室、書庫・備蓄倉庫等の設備

参考事例

[桑名福祉ヴィレッジ:桑名市 HP より]

■概要

- ・ 少子高齢化や人口減少、福祉ニーズの多様化・複雑化など、大きく変化する福祉分野を取り巻く環境や課題に対応した福祉サービスを確保するため、高齢者・障害者・子どもなどに対して通所や入所、相談などを包括的に提供する多世代交流・多機能型の福祉施設の整備が令和4年4月にオープンした。
- ・ 施設は、「すまいのエリア」「かよいのエリア」「かかわりあいのエリア」「ヴィレッジ公園」の4つで構成しており、「すまいのエリア」は母子家庭や高齢者の暮らしを支える施設があり、「かよいのエリア」は子どもから高齢者、障がいのある人などが自然な交わりの中で過ごせる環境を提供、「かかわりあいのエリア」は誰もが気軽に訪れることができるラウンジやショップ、「ヴィレッジ公園」は施設利用者に限らず誰でも散策や休息に利用できる公園。

桑名福祉 ヴィレッジが オープンしました!

子どもから高齢者まで、また障害の有無に福祉のかたちの実現をめざす「桑名福祉ヴィレッジ」がいよいよオープンしました。
(所在地: 桑川2239-1)

3/27に完成式典が行われました



●らいむショップ
火～土曜日 9:30～17:00(祝日を除く)
☎080-7525-3061

●ヴィレッジセンター
火～日曜日 9:00～17:00(祝日を除く)
☎41-2955

●かかわりあいのエリア
施設の利用者やその家族だけでなく、誰もが気軽に訪れることができる「ヴィレッジセンター」と、食器や日用品「ハンドメイドのアクセサリー」などの販売を行う「らいむショップ」があります。

2階は地域住民の交流や社会福祉の推進、ヴィレッジセンターの開設は交流ラウンジなどを目的に利用を促進するとともに、施設利用者以外にも気軽に。



●すまいのエリア
母子家庭や高齢者の暮らしを支える施設があります。事前の施設に比べ設備が充実し、それぞれの施設の良さを共有し合えるようになっています。

●らいむの丘(ハイム) (母子生活支援施設)
18歳未満の子どもを養育している母子家庭などが、子どもと一緒に利用できる施設です。

●らいむの丘(ハイム) (養老老人ホーム)
身体・精神・経済的な理由などで、自宅での日常生活が困難なおおむね65歳以上の人が暮らす施設です。

●かよいのエリア
子どもから高齢者、障がいのある人まで、さまざまな人が通う施設があります。子どもたちが年齢や障害の有無に関わらず、自然な交わりの中で過ごせる環境をめざします。また、障害福祉サービスや、介護保健制度利用に必要な計画作成を支援する事業も、障がいのある人が高齢者と一緒に、積極的に連携し、適切なサービスを受けようとしています。

●らいむの丘保育園
●ナースングサセンターらいむの丘(生活介護)
●児童発達支援センターらいむの丘
●相談支援センターらいむの丘
●ケアプランセンターらいむの丘

●かかわりあいのエリア
施設の利用者やその家族だけでなく、誰もが気軽に訪れることができる「ヴィレッジセンター」と、食器や日用品「ハンドメイドのアクセサリー」などの販売を行う「らいむショップ」があります。

●ヴィレッジ公園(やまほ公園)
芝生広場や遊具広場から公園「ヴィレッジ公園」の整備が、まほ公園は、福祉ヴィレッジに移転される前の福祉施設の土地が、跡地まほ公園、氏かまほ公園を合わせたことにより、まほ公園の整備が実現しました。また、福祉ヴィレッジの整備が実現しました。

●芝生広場
既存林を生きつつ適度な植栽を行い、身近に自然を感じられる公園です。芝生は養成中のため、丁寧にお使いください。

●らいむの丘(ハイム) (母子生活支援施設)
●らいむの丘(ハイム) (養老老人ホーム)
●相談支援センターらいむの丘
●ケアプランセンターらいむの丘

●特別特集にて
●桑名福祉ヴィレッジ大解剖!

☎秘書広報課(☎24-1492 ☎24-1119)
らいむの丘(☎41-3820 ☎41-3828)



(2) スポーツ健康ゾーン

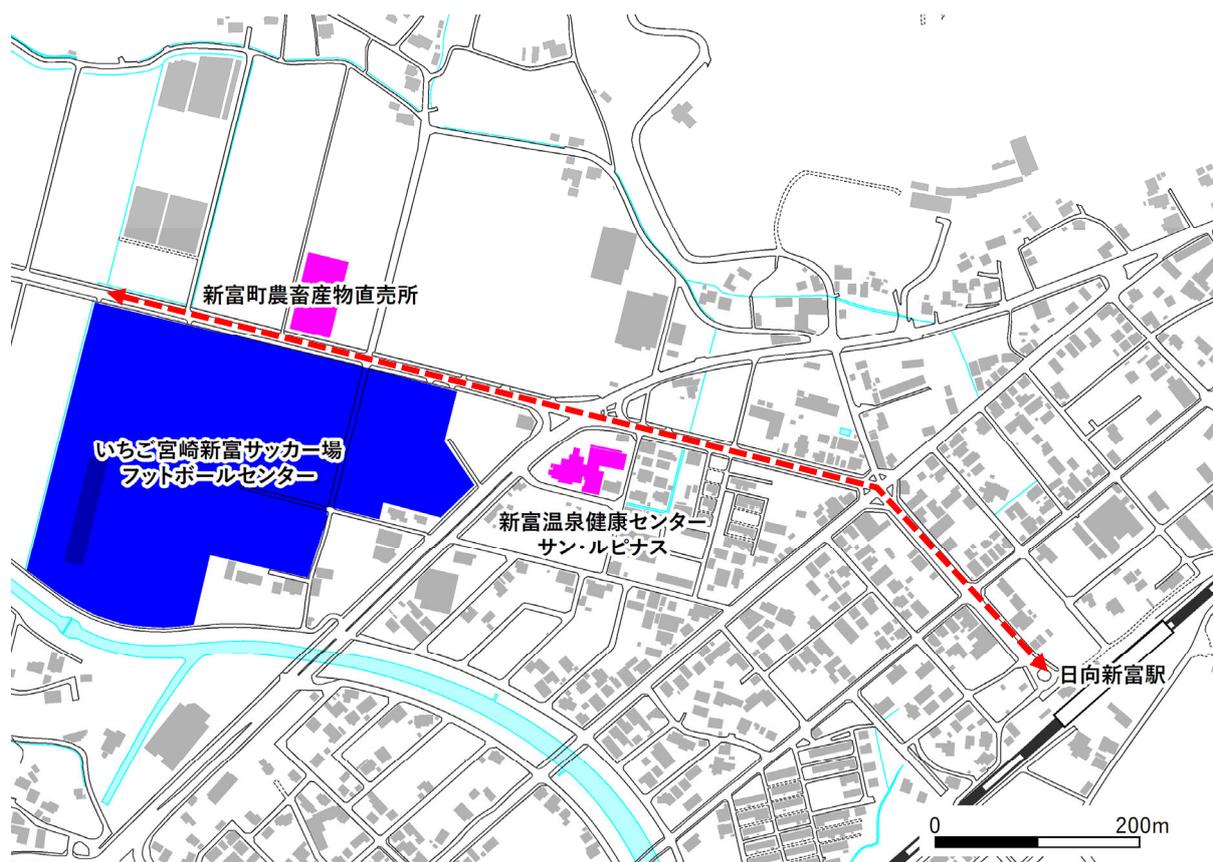
[対象地の概況]

- ・ スポーツ健康ゾーンには、JR 日豊線 日向新富駅から北西へ約 700m にいちご宮崎新富サッカー場、フットボールセンターをはじめ、新富町温泉健康センター サン・ルピナス、農畜産物直売所が立地している。
- ・ 「テゲバジャーロ宮崎」、「ヴィアマテラス宮崎」のホームグラウンドとして、年間に約 13 万人が訪れているが、来場者の街なかへの回遊が課題として挙げられている。



[ゾーン内の主な公共施設]

施設名称	機能	建築年度	延床面積
いちご宮崎サッカー場	サッカースタジアム	2021年	—
フットボールセンター	フットボールコート	2023年	—
新富温泉健康センター サン・ルピナス	温浴施設	1989年	762 m ²
農畜産物直売所	農畜産物販売施設	2024年	1463.5 m ²



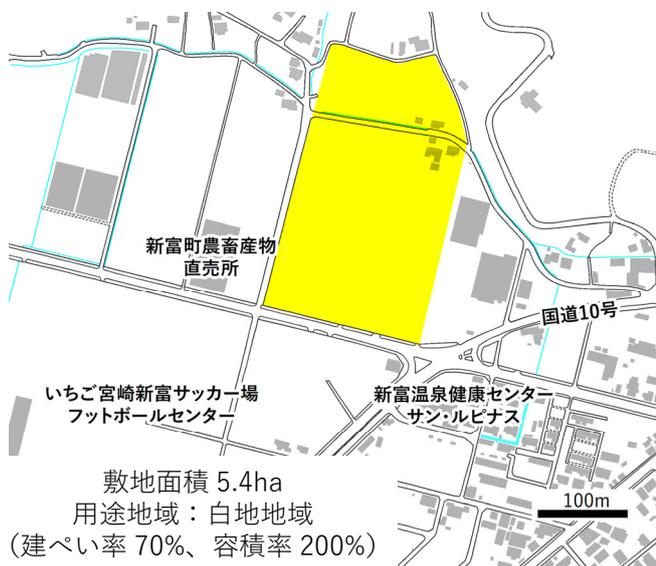
スポーツ健康ゾーンでは、近年整備されたサッカー場等の既存施設の連携強化、ゾーン一帯の更なる魅力向上による町内外から多くの人々が集い・交流する場を目指す。

(2)ー1:健康交流施設の整備

[目的]

本町には温泉健康センターがあり、多くの町民に利用されているが、身体に障がいのある方や心に障がいのある方、皮膚病など外観を気にされる方、様々な理由により温泉に行けない方への対応ができていない。そのため、車いすの方1人でも入浴可能なバリアフリーが徹底されていることや、介助が必要な夫婦、家族でも周りの目を気にせずお互い助け合いながらすべての町民が安心して身体を休めることができるインクルーシブな温泉が求められる。

また、町内にはトレーニングルームやプールを併設した企業社員の福利厚生施設として町民も利用できるスポーツジムがあるが、老朽化が進んでおり今後の計画も現在のところ白紙である。そのため、今後も継続してトレーニングルームやプールなど身体を使った運動ができる施設を整備することにより、町民の運動する機会を創出し、健康寿命の延伸やフレイル対策、医療費の削減等を図ることを目的とする。

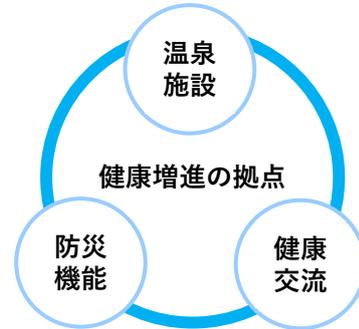


[取組方針]

コンセプト：官民連携、癒しと健康増進の拠点

【基本的な考え方】

現在の温泉施設に加えて、隣接する三納代運動広場等を含めた周辺を一体的に活用し、温泉設備と合わせた健康交流施設の拡充を図るとともに、国道10号からのアクセス性向上、駐車場確保、災害時の避難場所としての活用も考慮し、新たな健康拠点施設の整備を目指す。また、昨今の社会ニーズに対応した個別温泉など、周辺施設と連携を図りながら相乗効果をもたらす、健康増進・交流促進に資する施設整備を図り、住民や来訪者が一日を過ごせる拠点形成を目指す。



【取組方針】

- みんなが訪れる・・・住民の日常的な利用から来訪者も訪れる施設の整備
- みんなが健康になる・・・みんなで楽しみながら健康になる施設の整備
- みんなで繋がる・・・周辺施設との連携によって相乗効果をもたらす空間利用
- みんなを癒す・・・誰もが安心して利用できるインクルーシブな温泉の整備

[主な導入機能]

- 健康寿命延伸機能
トレーニングルームやプール、ボルダリングなど日常的に体力増進や健康維持運動ができる設備
- 屋外運動機能
グラウンドゴルフや運動会など様々な健康づくりに利用できる多目的広場や周辺をウォーキング等で利用できる設備
- インクルーシブ温泉機能
様々な障がいや、家族環境に配慮したすべての町民が利用できる個別温泉施設
- コワーキング機能
日々の仕事に追われ運動不足の方でも運動の機会を創出するため、運動をしながら必要な時間に仕事ができる設備
- 共用・管理機能
健診（検診）や健康体操、健康に関する研修などが実施できる様々な規模の会議室やロッカールーム、事務室等の設備

参考事例

[スポーツランドみやぎき]:宮崎県ホームページより]

■概要

- 宮崎県の最上位計画「宮崎県総合計画:令和4年9月策定」は、令和22(2040)年を展望する「長期ビジョン」と直近5年間の重点プロジェクトを示す「アクションプラン」で構成。
- アクションプランの一つとして、全国トップクラスの豊かな食や自然、スポーツ環境など、本県の魅力に人々が感動し、県内外や国外との交流が盛んに行われ、力強い産業と魅力ある仕事、安心して働ける社会の実現を目指す「スポーツランドみやぎき」の推進を掲げている。
- 具体的な実施内容としては、国スポや障スポなどの各種競技会場の整備・改修、誰もが楽しめるスポーツ施設・宿泊施設等の受入環境の充実、屋外型トレーニングセンター等を活用したスポーツ合宿・大会の積極的な誘致などがあげられている。

[地域スポーツコミッション:スポーツ庁ホームページより]

■概要

- スポーツと景観・環境・文化などの地域資源を掛け合わせ、戦略的に活用することでまちづくりや地域活性化につなげる取組が全国で進められている。例えば、スポーツへの参加や観戦を目的とした旅行や、スポーツと観光を組み合わせた「スポーツツーリズム」、域外から参加者を呼び込む「地域スポーツ大会」、国内外の大規模な「スポーツ大会の誘致」、プロチームなどの「スポーツ合宿・キャンプ誘致」、住民向けの「地域スポーツクラブの運営」、「健康増進・地域交流イベントの開催」などが代表的な取組となっている。これらの取組を推進する仕組みが「地域スポーツコミッション」となる。
- 地域スポーツコミッションは、地方公共団体とスポーツ団体だけでなく、民間企業(観光協会、商工団体、大学、観光産業、スポーツ産業等)などが一体となった組織で、異業種間にヨコ串を刺し、スポーツによる地域振興という共通する目的に連携・協力して取り組む組織である点が特徴となる。
- スポーツ庁では、平成27年度から「地域スポーツコミッション」を支援する事業を実施しており、令和5年10月時点で全国204団体が活動を展開している。
- また、2021年度からスポーツ庁では、スポーツを活用した「地方創生」「まちづくり」「スポーツ・健康まちづくり」に積極的に取り組む自治体を表彰する「スポまち!長官表彰」を実施している。

重点項目3 国際水準のスポーツの聖地「スポーツランドみやぎき」のブランド力向上

【実施内容】

1	国スポ・障スポに向けた各種競技会場の整備・改修
2	誰もがスポーツを楽しめるスポーツ施設・宿泊施設等の受入環境の充実
3	屋外型トレーニングセンター等を活用したスポーツ合宿・大会の積極的な誘致
4	サイクリング・サーフィン・ゴルフ等のスポーツツーリズムの推進

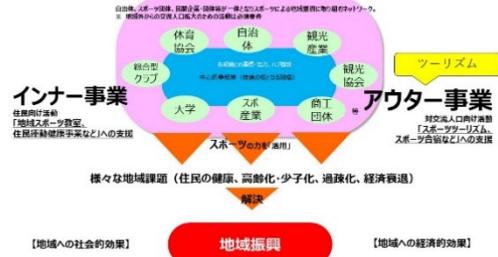


【指標】

観光入込客数 現況: 1,013万人回(令和3年) ▼ 目標: 1,650万人回(令和8年)	観光消費額 現況: 1,051億円(令和3年) ▼ 目標: 1,950億円(令和8年)
外国人延べ宿泊者数 現況: 1万人泊(令和3年) ▼ 目標: 36万人泊(令和8年)	県外からのキャンプ・合宿延べ参加者数 現況: 12.9万人(令和3年度) ▼ 目標: 25万人(令和8年度)

「宮崎県総合計画:アクションプラン」に掲げる「スポーツランドみやぎき」

ネットワーク:「地域スポーツコミッション」(総称)



「地域スポーツコミッション」に期待される役割

【期待される役割】
 ●「地域スポーツコミッション」の持つネットワークを活かして、地域のスポーツ関連組織・人材・取組を強く役割(ハブ、リエゾン機能)を果たし、スポーツツーリズムの推進等だけでなく幅広くスポーツによる地域振興を進めていくことが地域から期待されていること。

地域スポーツコミッションの中心的事務員自身の確保は必要不可欠だが、ネットワーク組織という道も広く、道幅は狭かり幅広い分野(観光とスポーツなど)で「組織」と「人材」を確保し、ハブ的役割を担う。



新しい事業展開が可能

【スポーツにおける観光、商工系人材の活用】
 ●観光協会・観光協会(観光協会)の活用
 ●観光協会・観光協会(観光協会)の活用
 ●観光協会・観光協会(観光協会)の活用

【観光・商工系人材の活用】
 ●観光協会・観光協会(観光協会)の活用
 ●観光協会・観光協会(観光協会)の活用
 ●観光協会・観光協会(観光協会)の活用

「地域スポーツコミッション」:スポーツ庁

「スポまち!長官表彰 2022」:佐賀県みやぎ町

(2)ー2:駅前ガーデンストリート整備

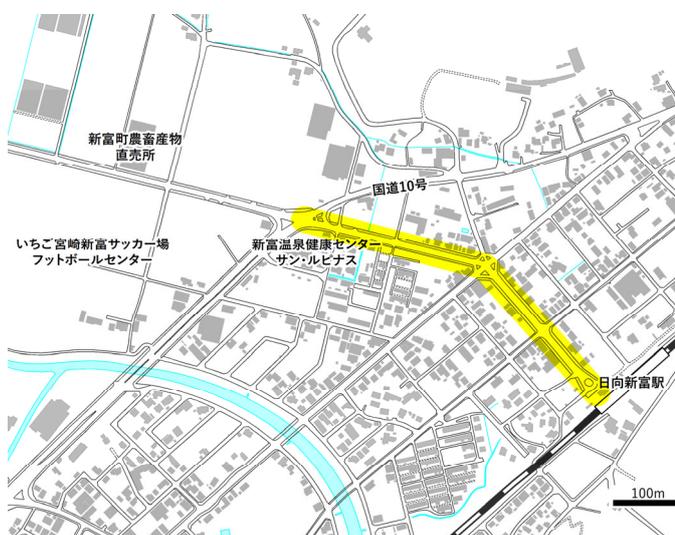
[目的]

日向新富駅は令和7年度中にICカード導入、及びホームのバリアフリー化が予定されており、同事業と連携して町の玄関としての機能を高める。

日向新富駅からサッカー場までの広い歩道空間を活用し、町の玄関口として通りの演出を行う。

歩道空間や緑地空間などでの植栽やサイン整備などにより、日常的に駅を利用する住民への安らぎの演出、来訪者向けの情報発信の強化を図る。

沿道の植栽には、地元企業や住民参加による持続可能な取組として実施を検討し、季節の移ろいや南国宮崎を感じられる特徴的な通りとして演出を目指す。



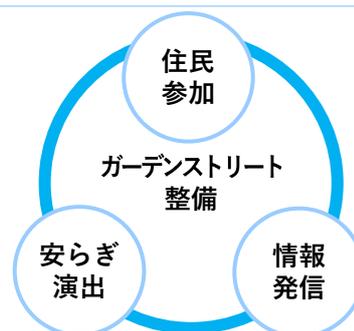
【取組方針】

コンセプト：地元企業・住民参加、ガーデンストリート整備

【基本的な考え方】

駅前のシンボルロードとして、歩道空間で通行機能を維持した上で、地元参加による季節の花々を植栽することによりまちづくりへの参画、シビックプライドの醸成を図る。

また、街なかでのサイン整備の一環として、サインマニュアルを策定した上で、来訪者向けの歩行者サインの整備、情報発信の強化を目指す。



【取組方針】

みんなで参加する・・・地元企業や住民参加によるシンボルロードを整備

みんなで育てる・・・持続的な活動として位置づけ、季節や年月の移り変わりを演出する

みんなで考える・・・町内の通り名や活動内容など参加者で考えて事業を実施する

みんなで広げる・・・道路空間に限らず、玄関先や軒先などの民地での活動へ広げる

[主な取組]

- 通り名設定
駅前のシンボル道路の通称名を地域で決定する
- 歩道植栽
歩道の一部を活用し、季節の花々の植栽を行う
- 日常的な維持管理
日常的な清掃や水やり、枯れた草花の撤去など協力して行う
- 民地の演出
玄関先や駐車場など、民地内でも協力できることを考えて自主的に実施

参考事例

[一人一花運動：福岡市ホームページより]

■概要

- 福岡市では、市民・企業・行政一人ひとりが、公園や歩道、会社、自宅など、市内のありとあらゆる場所での花づくりを通じて、人のつながりや心を豊かにし、まちの魅力や価値を高める、花によるまちづくりを目指す『一人一花運動』に取り組んでいる。
- 取組を推進するために市では専用ホームページを開設しているほか、個人向けや企業向けへのリーフレットや Q&A による周知の徹底を図っている。



個人向けの取組紹介リーフレットでは、それぞれに向いている活動内容などを紹介

[小平グリーンロード&オープンガーデン：小平市ホームページより]

■概要

- 小平市では「狭山・境緑道」「野火止用水」「玉川上水」と都立小金井公園を結ぶ、小平市を一周する水と緑の散歩道を「小平グリーンロード」として位置付け景観整備を進めている。
- また、近隣住民は、個人の庭を一般に公開するオープンガーデンを実施している。丹精こめた庭や花壇を開放し、訪れた人が季節の植物を楽しみ、交流を深め、自然とうるおいのある街となることを目指している。



こだいら観光まちづくり協会ではガーデンマップ(日本語、英語、中国語、韓国語)を配布

(3) レクリエーションゾーン

[対象地の概況]

- ・ ゾーン内には、緑の松林に囲まれた富田浜入江に隣接し、キャンプ場や多目的広場、富田浜入江を利用した漕艇場や研修施設など、住民の憩いの広場として幅広く活用されている富田浜公園が立地している。
- ・ 富田浜公園は、2027年宮崎国スポでサッカー競技場として活用や、防災公園や駐車場整備などの事業が予定されており、全体的な事業推進が図られている。



[ゾーン内の主な公共施設]

施設名称	機能	建築年度	延床面積
富田浜公園	都市公園	1979年	1,285 m ²
富田浜スポーツ交流センター	研修室、宿泊施設、食堂	2015年	380 m ²
富田浜キャンプ場	キャンプ場	1983年	27 m ²

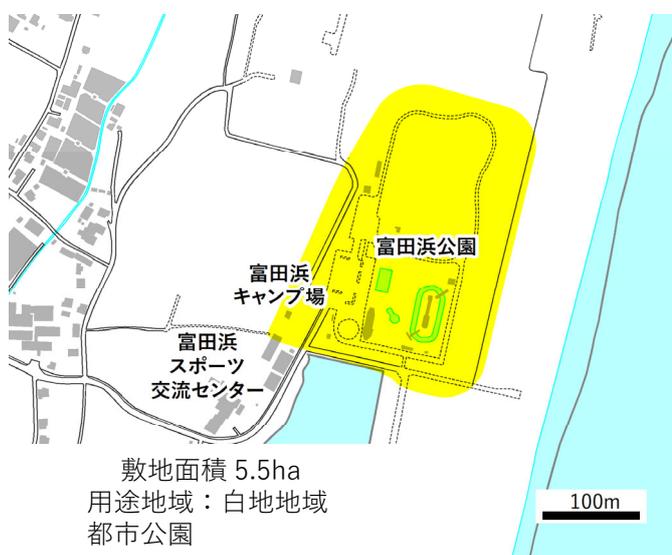


レクリエーションゾーンでは、公園施設全体のリニューアルに向けた整備を対象とする。

(3)ー1:富田浜公園リニューアル

[目的]

富田浜公園の多目的広場周囲に遊歩道が整備され、町民がウォーキングやジョギング等で利用しているが、2027年宮崎国民スポ開催に合わせ多目的広場がサッカー競技場として再整備されることになり遊歩道が無くなることから、隣にある保安林等を活用した林間遊歩道を整備し、日ごろからウォーキングやジョギング等を行うことで、町民の健康寿命の延伸やフレイル対策、医療費の削減等を図ることを目的とする。



【取組方針】

コンセプト：官民連携、Park-PFIによる公園リニューアル

【基本的な考え方】

富田浜公園一帯に求められる多様なスポーツ・レクリエーション・環境学習に対応する機能に加えて、貴重な水辺・緑・生物生息環境の保全、災害時に人々の安全を守る防災機能を有する公園としてリニューアルを目指す。

また、公園リニューアルにあたっては、にぎわい創出を目的として民間活力を導入するための制度「Park-PFI」の活用を視野に検討を進める。



【取組方針】

みんながいつでも・・・日常的にいつでも利用できる空間の整備

みんなが健康・・・屋外で健康の維持・増進のために行う施設の整備

みんなが安らぐ・・・自然の中で心身を休める空間の整備

みんなが安心・・・津波避難場所を活用した施設整備

[主な導入機能]

●屋外運動機能

自然の形状を利用したウォーキング・ジョギングコース

●健康維持増進機能

屋外で利用可能な健康器具等の設備

●夜間運動機能

夜間でも利用可能な外灯設備

参考事例

[常総運動公園/ JOSO SPORTS PARK]: 守谷市ホームページより]

■概要

- ・ 茨城県守谷市の「常総運動公園」は、昭和47年に都市計画決定された約17haの運動公園で、敷地面積18haと市最大の公園である。
- ・ 2022年4月より指定管理制度とPark-PFI併用事業が順次開業「JOSO SPORTS PARK」として、リニューアルが進められている。
- ・ 公園内には体育館、屋内プール、テニスコート、広場、野球場、児童あそび場のほか、長年地域に親しまれてきた流れるプールはコミュニティガーデンとして、DOG PARK RUN and POOL やキャンプフィールドとして生まれ変わっている。



長年利用されてきたプールはドッグパークで夏場は犬専用のプールとして活用されている

[ABU キャンプフィールド: ABU キャンプフィールドホームページより]

■概要

- ・ 山口県阿武町は人口わずか約3,000人の町。恵まれた森里海的环境を楽しむ拠点として、町の中心部に位置する道の駅の隣、日本海に面した場所にキャンプ場を開設した。
- ・ ABU キャンプフィールドは、スノーピーク地方創生コンサルティング監修のもと、自然が本来持つ豊かさやそれに関わることの心地よさを体感できる施設となっており、阿武町ではキャンプ場を「まちの縁側」と位置付けている。
- ・ ABU キャンプフィールドは、キャンプを楽しむ場だが、町内の棚田での田植え体験や全国でも希少な無角和牛の牧場見学など、地域の自然に関わるなりわいを体験コンテンツとして提供している。特に夏の「一日海士体験」は近隣の漁業者と協力し、利用者が海岸に潜ってサザエを探ることができるプログラムとして、人気が高い。
- ・ また、町内林業者が伐りだした薪販売や、有機農家の採れたて野菜を購入することができる。



温泉棟1階にある水着着用で楽しむ往復100mの歩行湯

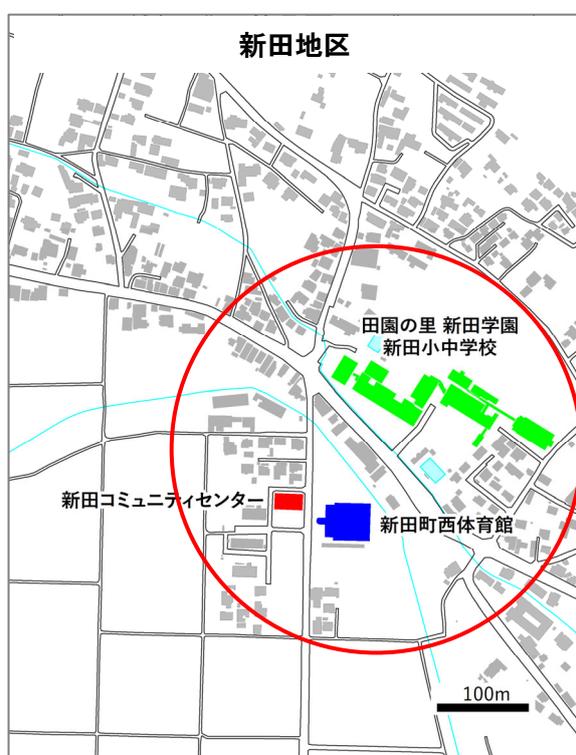
(4) 地域拠点ゾーン

[対象地の概況]

- ・ 新田地区については、既に新田コミュニティセンター、新田テニス広場、新田多目的広場の整備など一定の機能充実が図られている。一方上新田地区は、旧上新田小学校跡地の活用や、上新田公民館の老朽化などの課題が残る。
- ・ ゾーン内では、小中学校の統合をはじめ、公民館からコミュニティセンターへの更新など、地域特性をふまえた公共施設整備が進められており、今後も事業推進が求められている。

[ゾーン内の主な公共施設]

施設名称	機能	建築年度	延床面積
新田コミュニティセンター	公民館、役場支所、コンビニ	2022年	487㎡
上新田公民館	公民館	1972年	424㎡



地域拠点ゾーンでは、町内小学校や支所など、地域の拠点機能の充実を図る。新田地区においては先行してコミュニティセンター等の整備が完了しているため、上新田地区において旧上新田小学校跡地での公民館リニューアルを対象とする。

(4)ー1: 上新田公民館リニューアル

[目的]

上新田学習館は、建設後 50 年以上経過し、雨漏りなど施設の老朽化が進行し、バリアフリー未対応である。そのような中、各種健診(検診)や健康体操等を実施しているが、高齢者や障がい者等の町民が利用しづらい施設となっている。今回、老朽化による施設更新に合わせ、バリアフリー化、高齢者や子どもの居場所となるような空間、保険事業や介護予防等のフレイル対策が実施可能な場所など、上新田地域の拠点となる施設として整備することにより健康福祉対策の推進を図り、また、同じく老朽化している一ツ瀬川飲雑用水広域水道企業団の事務所を複合し、常に人がいて駆け込める場所の創出や町民サービスの向上を図ることを目的とする。



[取組方針]

コンセプト：地域コミュニティ拠点

【基本的な考え方】

上新田地区の住民ののための地域コミュニティ形成を支える拠点施設として、老朽化施設の更新を図る。

施設更新にあたっては、従来の公民館が持つ交流空間を設けるほか、生涯学習を行える設備、生活利便施設の設置を検討する。

また、災害時における防災拠点としての機能も持たせ、地域住民の生活を支える施設を目指す。



【取組方針】

地域で使う・・・地域住民の公民館としての機能を持った施設の整備

地域で学ぶ・・・地域の文化活動や交流イベントなどの利用を想定した整備

地域を支える・・・地域の日常生活を支える利便施設の整備

地域を守る・・・災害時の避難場所を想定した整備

[主な導入機能]

●集会交流機能

がん検診や健康診断など各種健診（検診）や介護予防等のフレイル対策に基づく健康体操、いきいきサロン、健康福祉の研修などが実施できるホールや集会室、和室、調理室等の設備

●行政機能

企業団用の事務室や職員用ロッカー、倉庫等の設備

●管理機能

施設管理を行う管理人室や災害時に避難所として開設した際に必要な備蓄倉庫等の設備

参考事例

[新田コミュニティセンター]

■概要

- ・ 新富町新田地区では、老朽化した公民館の更新と合わせて、地域拠点として複合的な機能を持たせた新田コミュニティセンターとして令和4年4月1日にリニューアルオープン。
- ・ 施設の特徴として、従来の公民館機能として会議室や交流ルームを設けたほか、支所機能を追加。その他、日常生活を支援するコンビニやコインランドリー、災害時の備えとして避難所機能も持っている。
- ・ コンビニでは、日用品のほか、地場産の野菜、自衛隊グッズ、駄菓子などを取りそろえる。



地域の会合での利用を想定した会議室や地域の方が自由に使える多目的ルーム



コンビニでは地場産の野菜販売を行い、コンビニの隣にはコインランドリーを設置



明るく開放的な調理室を設置、トイレはユニバーサルデザインとなっている

(5) 地域資源体感コース

[対象地の概況]

- ・ 本町には、新田原基地を囲むように町内を周遊できる県道と、そこから派生する町道があり、歴史や自然、食、景観など様々な地域資源が点在している。
- ・ 町民にとっては日頃の健康増進のため、町外から来られる方への新たなツーリズム提供など、地域資源を連携し、回遊する仕掛けづくりが求められる。

[コース内の主な地域資源]

名称	内容
新田原古墳群	4世紀から6世紀にかけて造られた古代人の墓＝古墳が200以上点在する。6世紀には宮崎県域でも最大の首長墓が多数ある。
湯之宮座論梅	今から300年以上前から存在する梅園。白の一重の花をつける。
春日のいちょう	樹齢600年以上ともいわれるイチヨウの古木。
新田神社	県指定無形民俗文化財である新田神楽が奉納される旧新田村の郷社。大祭は例年2月17日で、朝から夕方まで神楽を見学できる。
千木テラス	古民家再生協会が高千穂町にあった古民家を移築復元し、簡易宿泊所として営業中。
一丁田池ビオトープ	農業用水を確保するための溜池だった場所に湿地植物が群集。ホウキボシヌルヒゲなど、他にない固有種が存在。
新田原展望広場	基地全体を眺望できる場所に設置された公園。
新富町宿泊交流施設 OIWAKEBUNKO	元富田小学校追分分校跡を活用し、一般財団法人こゆ地域づくり推進機構が改修して宿泊施設として運営。スポーツ合宿に便利。
総合交流センター きらり	図書館、公民館、資料館の複合施設。町の歴史や自然を散策する前に必見の場所。新田原古墳群から出土した埴輪などを展示。
岩脇の化石層	今から200万年前に地中で堆積凝固した化学合成群集の化石。久家神社の敷地内。
観音山	海岸部にある独立丘陵。頂上に灯台あり。源為朝伝説が残る。



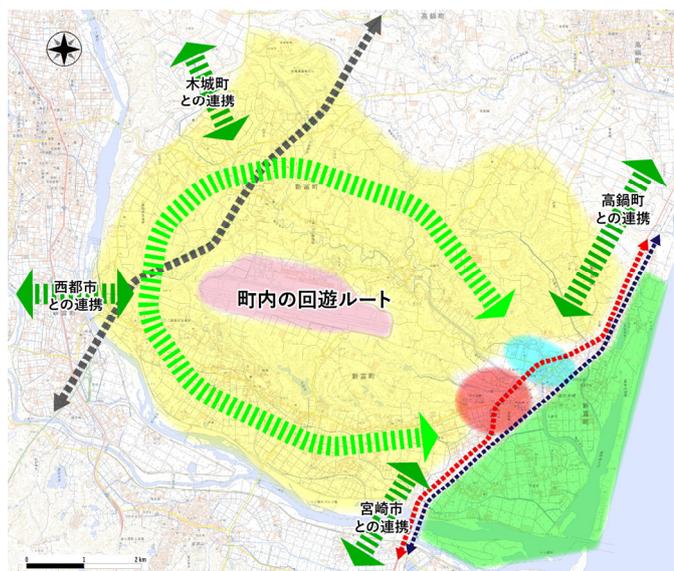
地域資源体感コースについては、他の補助事業の活用も検討するが、本事業を活用した環境整備は新田原古墳群及びその周辺や散策路等を対象とする。

(5)-1:フット&サイクルルート整備

[目的]

新富町は、自然・歴史・文化や新田原基地など、他の地域にはない魅力的な資源を有し、近年はスポーツ振興に力を入れるなど、多くの人を訪れる町へと変貌している。しかし、住民や来訪者にとって町内を回遊するための基盤整備が課題となっている。

一方、近年は健康志向の高まりとともに、ウォーキングやサイクリングを日常的に楽しむ人が増えており、フットパスやサイクルルートの整備も進んでいる。本事業では、広域での取り組みも着目しつつ、町内の代表的な資源を感じながら周遊できるフットパスやサイクリングルートの整備を図る。



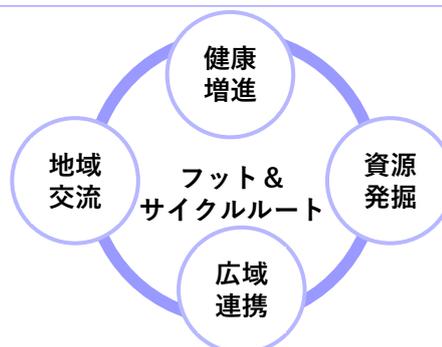
【取組方針】

コンセプト：Shintomi フット&サイクルルート整備

【基本的な考え方】

住民や来訪者向けに運動と交流の促進を目的に、地域資源を活かした町内回遊ルートの整備を目指す。

ルート検討にあたって、広域連携で取り組まれているサイクルルートやイベントとの整合を図りながら、住民にとっては健康増進への寄与、来訪者向けには地域交流の視点で検討を行い、新たな地域資源の発掘・活用やルート新設も考慮した整備を進める。



【取組方針】

地域を知る・・・地域資源の発掘や利活用をもとに回遊軸を設定

みんなで使う・・・日常的な利用から広域イベントでの活用も想定した整備

地域で育てる・・・回遊ルートの日常的な清掃や管理を地域で支える仕組みを構築

みんなで賑わう・・・新たな交流を生み出すアイデアや持続的な活動の展開

[主な導入機能]

●回遊ルート

地域資源を回遊するルート設定、快適に通行できる環境整備

●案内サイン

回遊ルートを紹介・誘導する総合案内サインから誘導サイン、記名サインなどのサイン整備

●休憩場所・サイクルラック

官民連携による休憩スポットの整備やトイレ・サイクルラックなどの環境整備

●仕組みづくり

日常的な清掃管理の仕組みやイベントでの利活用など、地域参加型による維持管理体制の構築

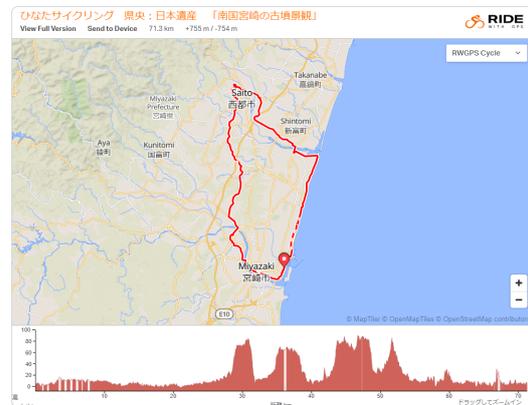
参考事例

[日本遺産「南国宮崎の古墳景観」をめぐるルート:ひなたサイクリング宮崎 HP より]

■概要

- ・ ひなたサイクリング宮崎では、太陽にめぐまれ、食、文化、そして観光に最適な宮崎、自転車パラダイス宮崎ならではの自転車の楽しみ方やおすすめサイクルルートなどの情報を配信。
- ・ 新富町では、日本遺産「南国宮崎の古墳景観」をめぐるルートとして、宮崎市・新富町・西都市をめぐるルートを紹介している。
- ・ 宮崎市や西都市では近年、自転車イベント事業に力を入れており、様々なイベントを開催していることから本町との連携強化を図っていくとも考えられる。

日本遺産 南国宮崎の古墳をめぐるルート



[ディスカバリーグルメライド in 児湯・西都:左記サイト HP より]



■概要

- ・ 児湯・西都地区の観光地や食を堪能し、豊かな自然と触れ合えるサイクルイベント。地域の魅力発信と交流人口増、魅力的で住みたくなる街づくりへの貢献を目指し開催している。
- ・ コースは 30km から 100km までとファミリーから本格的なライドまで幅広い世代に参加できるほか、JR とタイアップしサイクルトレインを運行するなど、様々な企画が盛り込まれたイベントになっている。
- ・ また、本イベントは、参加市町村と連携し、「ふるさと納税」の返礼品として、「ディスカバリーグルメライド in 児湯・西都」の各コース出走権を贈呈している。

